東京藝術大学
環 境 報 告 書

2022

Tokyo University of the Arts

Environmental Report

2022

目次

1 学長挨拶 03

2 藝大SDGs 04

3 組織体制 05

4 施設概要 06

5 環境に関する取組み 08

6 マテリアルバランス 11

7 環境負荷低減への取組み 14

1　学長挨拶

東京藝術大学は、SDGs推進活動の一環として環境負荷の低減及び自然環境の維持・保全に向けて取り組んでおり、本報告書は本学の環境活動の現状及び問題点や課題を広く公開し、本学の学生・教職員が、地域社会や企業とともに環境問題に継続的に取り組むことを目的として作成しています。

本学は、芸術の力で人の心を動かし、社会や地域に対して貢献すること、そしてウェルビーイング＝人々の生活をよりよくしていくことを目指して活動をしています。そのためには、私たちの日常の意識と行動を変えていく必要があります。そしてそれを継続的に行っていくためには、数値目標を義務的に達成するだけではなく、心の底から「そうしたい」「そうありたい」という気持ちがなければなりません。ひとりひとりが自分自身の目標として継続していくこと重要なのです。

SDGsの17のゴールには「芸術」という言葉はありません。しかし、人の心を動かすことは芸術の成せる技であり、すべての目標の達成プロセスには必ず芸術が接続しています。真ん中の部分がにじんでいる藝大SDGsのロゴのビジュアルには、多様で移ろいやすい人の心と、その心が動くことによって行動変容が促される、そういう意味が込められています。

東京藝術大学は今後も、環境改善をはじめとするSDGsの目標の達成に貢献できるよう、また貢献できる人材を育成できるよう、教職員、学生、地域の方々やステークホルダーのみなさんと共に、よりよい未来を築いていくための活動を継続して参ります。

令和５年２月

東京藝術大学長　日比野　克彦

2 藝大SDGs

本学は、環境負荷の低減及び自然環境の維持・保全に向け、SDGs推進室の元に環境系専門委員会を立ち上げ、継続的に取り組んでいます。以下は本学におけるSDGs（Sustainable Development Goals）への基本的な考え方です。

藝大 SDGs

藝術は、ずっと前からSDGs。

そして、今こそ、

疑い、問い、変革する。

人を愛し、心を打ち、社会を動かす。

世界を幸福にするイノベーションとして。

- **東京藝術大学は、SDGs が掲げる社会変革に貢献します。**
  独創的な視点からイノベーション生み、人の心を動かす藝術の力によって
- **東京藝術大学は、社会との結びつきを強化します。**
  SDGs を共に目指すことで新たな連携の広がりを
- **東京藝術大学は、持続可能な大学を目指します。**
  学内の自然の“美”と多様性の“鮮やかさ”を守ることで
- **東京藝術大学は、藝術と社会の架け橋となる人材を育成します。**
  藝術によって社会課題の扉を開くことを目指して

SDGs が掲げる17 の目標の中に、「芸術」の文字は、ひとつもありません。それは、17 の目標すべてに藝術が接続すべき必要と出番があるということ。

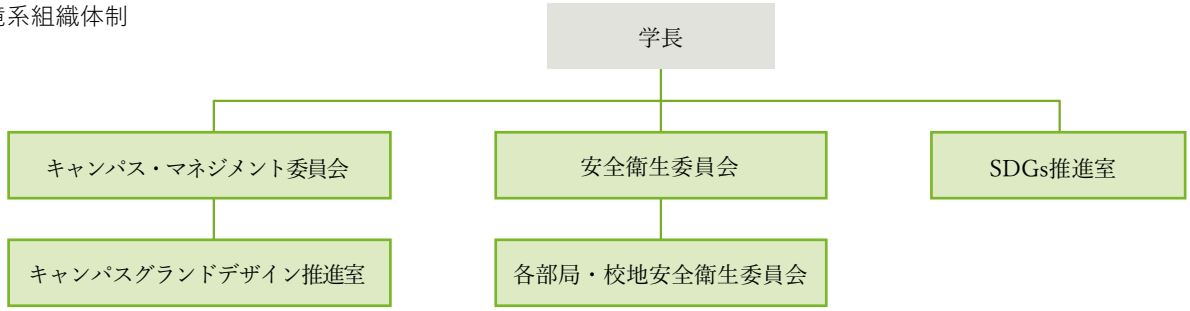
大量生産・大量消費・大量廃棄が引き起こす地球の悲鳴。そして貧困、差別、暴力による人間の悲鳴。すべての藝術家たちは、遥か以前から、その悲鳴に心を向け作品を生み続けて来ました。ダヴィンチも、ベートーヴェンも、ピカソもショパンも、バンクシーも。

藝術活動は、人間が人間たる所以。そして人間はこの10年で、既存の価値観を大きく転換させなくてはなりません。

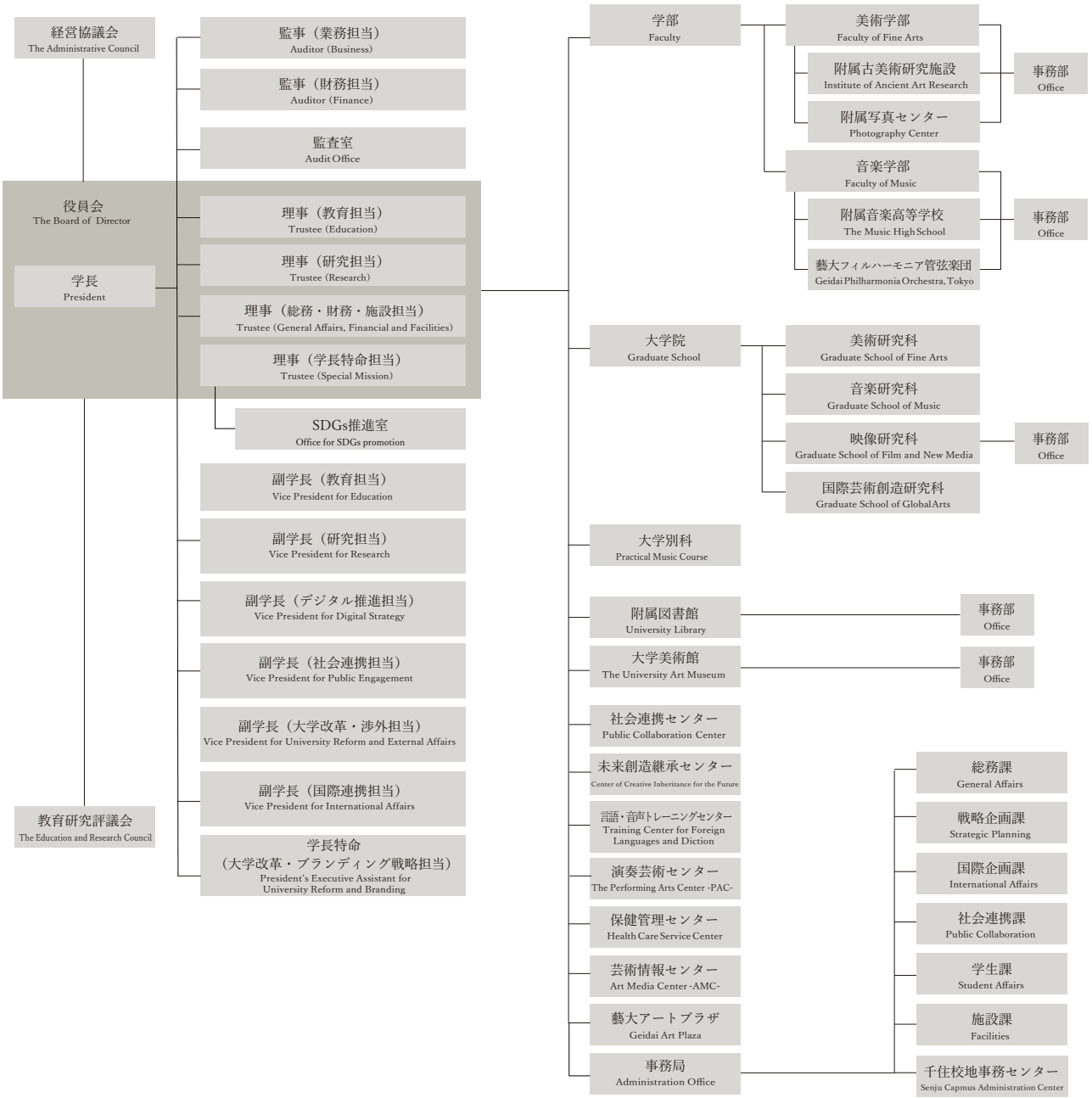
社会変革の種を“藝”える“術”を持つ東京藝術大学。「世界を変える創造の源泉」として、豊かで幸福、持続可能な社会を実現する役割を果たします。

3 組織体制

環境系組織体制



本学の組織体制



4 施設概要

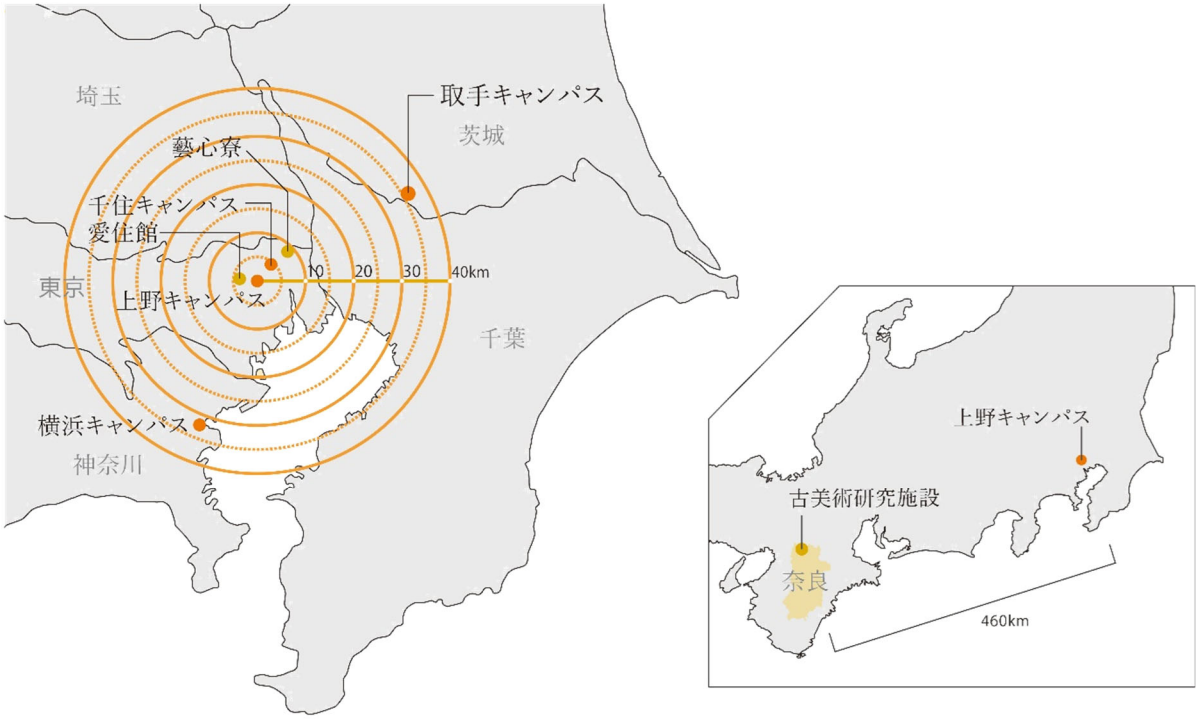
● 上野キャンパス ［東京都台東区上野公園内］	美術学部 大学院美術研究科 音楽学部 大学院音楽研究科 大学院国際芸術創造研究科 各附属機関・センター等 事務局本部	在学者数 教職員数 敷地面積 延床面積	2,912名（87%） 345 名（82%） 69,365 m²（28%） 96,463, m²（74%）
● 取手キャンパス ［茨城県取手市］	美術学部 大学院美術研究科 各附属機関・センター等 取手事務室	在学者数 教職員数 敷地面積 延床面積	229 名（7%） 24 名（6%） 164,095 m²（67%） 20,341 m²（16%）
● 千住キャンパス ［東京都足立区千住］	大学院音楽研究科 大学院国際芸術創造研究科		
● 横浜キャンパス ［神奈川県横浜市］	大学院映像研究科		

● 美術学部附属古美術研究施設［奈良県奈良市］
● 愛住館［東京都新宿区］

《計》
2 学部14 学科4 研究科
在学者数 3,355 名
教職員数 419 名
敷地面積 244,012 m²
延床面積 131,224 m²

藝心寮（学生寮）は除く
2022 年5 月現在

4つのキャンパスと3つの附属施設の位置関係

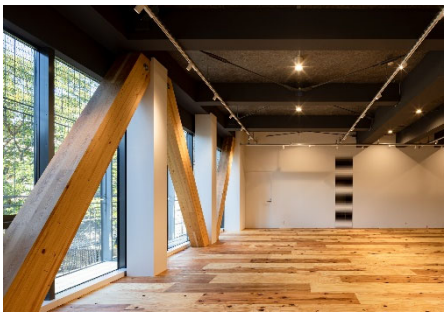


上野キャンパス鳥瞰図

取手キャンパス鳥瞰図（「東京藝術大学キャンパスマスタープラン2020 取手キャンパス編」「将来イメージ」より）

5 環境に関する取組み

1 持続可能なアートと建築の融合の実現



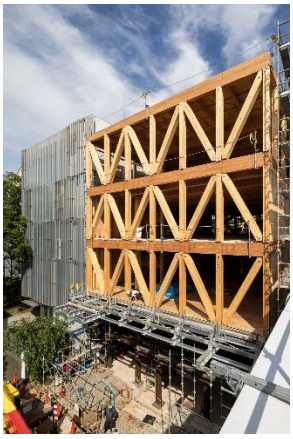
左：建物外観。ファサードに変化し続けるパブリックアートを展示。　右上：木材を多用した建物内観。　右下：留学生が製作した陶板アート。

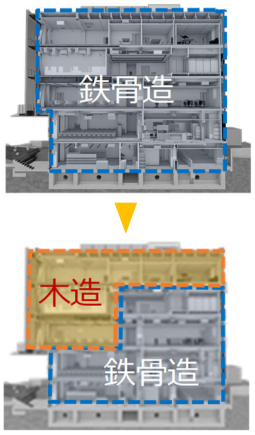
令和４年11月 上野キャンパス内に、留学生や国際社会との交流を生み出す場として、東京藝術大学国際交流棟(Hisao＆Hiroko TAKIPLAZA)が完成しました。

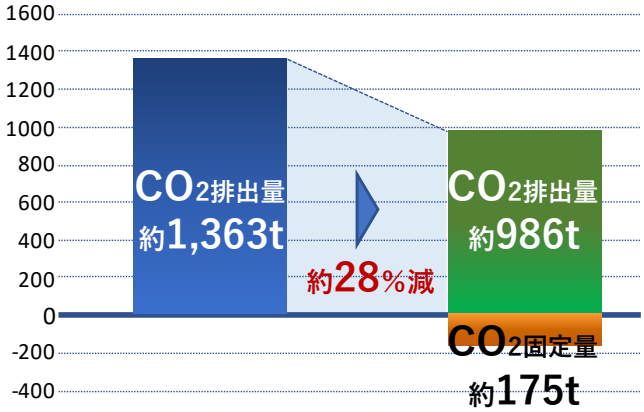
＜共に藝える（うえる）＞をコンセプトとした本建物は、さまざまな交流の象徴として、留学生や学生、教員等が製作したパブリックアートが屋内外の随所に散りばめられ、将来にわたり作品が増えたり入れ替わったりしながら絶えず変化を続けます。そのアート作品や建物を構成する材料には、学内に植生する植物や、自然災害による被害を受けた樹木が利用されており、アートと建築の持続可能性を体現した建物となりました。

◆環境に配慮した建築

本建物は、環境面への配慮だけでなく、高いデザイン性や安全性なども兼ね備えた、木造と鉄骨造のハイブリット構造を採用しました。ハイブリット構造とすることで、すべてを鉄骨造で建設するよりも、約28%のCO_2排出量を低減することができました。また、木材を積極的に活用することで、建設時のCO_2排出量の低減だけでなく、木材に含まれる炭素によるCO_2の固定化や、森林の新陳代謝の促進など、さまざまな面からCO_2排出量の削減に貢献します。





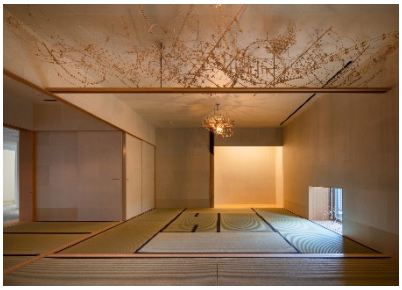


（※One Click LCAによる前田建設の算出）

◆パブリックアート

地産地消パブリックアート

共有スペースに設けられた和室は、取手校地に自生する若竹を原料とした和紙を障子に使用し、また2019年の台風により被害を受けた樹木を加工した木材で床の間や床柱を設えるなど、“地産地消”をテーマに構成されています。



上・左下：和室内観。床の間や床柱に台風被害を受けた樹木を、内装や建具に和紙を使用。　下中・右：取手校地の若竹を原料に取手工房にて漉いた和紙。

変化し続けるパブリックアート

建物西側のファサードには、本来は切り取られてしまう鋳造時に型からはみ出た“ばり”の部分を取り込み、多様性を表現した作品『misfit』や、　建築と廃棄物をテーマに、建設時に使用され役目を終え、普段は廃棄されてしまう手袋をアートに変えた作品『g love s』などが展示されています。

中央：作品名 misfit （共通工房金工機械室）　中央：鋳造風景。　右：作品名 g love s （前田建設工業）

◆台風で被害を受けた樹木の利用

被害を受けた樹木を乾燥させ、和室の床の間等の材料や館内サインに活用しました。

台風による被害

木材の乾燥

床の間

館内サイン

2 藝大ヘッジの取り組み

本学の上野キャンパスでは、敷地の周縁に落葉・常緑の武蔵野由来在来種40数種類の苗木を、学生教職員、近隣地域の方々を含む一般市民とともにワークショップ形式により自らの手で植え付ける活動を行っています。

令和元年に整備した「藝大ヘッジSeason5」は、およそ120mの直線部に1500本を超える苗木を植え、所々ベンチを点在させて、より親みの増した道端をかたちづくることに成功しました。

この取り組みは毎年度少しずつ距離を伸ばしこれまでに8回の植樹を実施しました。令和4年度末時点で420m、7545本の植え付けを行なっています。

花や新芽、紅葉など、四季の移ろいに応じて常に変化する様子は道ゆく人の目を楽しませてくれるだけでなく、訪れる蝶や昆虫の種類も増え多様性を育む場となっており、新亜種の昆虫も発見されています。

鉄柵で区切られていた敷地境界

鉄柵を取り払い灌木で緩やかに区切られた境界（R4年11月実施）

植え付けた苗木は、お手入れ（水遣り、選択的除草、清掃、剪定など）の作業を有志学生参加の「お世話隊」により月に３回、約２時間程度行なっています。

構内には武蔵野原生林の面影を残す「保存林」と呼ばれる雑木林があり、同じくお世話隊の活動により林床保全に努めています。

活動を通して学生自ら自然と対話する時間が得られているとともに、ほんの少しのお手入れによってもキャンパスを美しく保つことができるという実践の機会となっています。

上野校地内にある保存林

「お世話隊」によるお手入れ活動の様子

この取り組みは、これまで多方面から多くの支援をいただき実現してきております。

本学を貫通する道路部分での完成まであとわずかとなっており、引き続き延伸するとともに、持続可能な維持管理についても継続して取り組んで参ります。

藝大の森サイトURL
https://geidaicgd.wixsite.com/geidainomori/

6 マテリアルバランス

大学は、電気、ガス、水などのエネルギーや資源を消費しながら教育・研究活動を行っており、廃棄物や二酸化炭素の排出など、様々な形で環境へ負荷を与えています。

本学では、過去５カ年の推移を確認し、増減の原因等を分析しています。

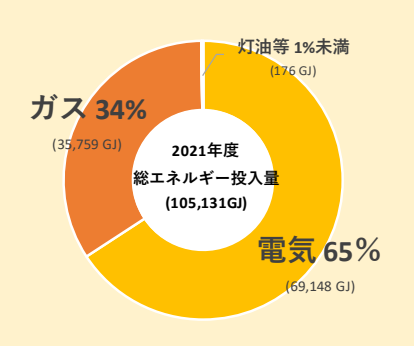
（主にエネルギーの使用の合理化等に関する法律に基づき報告した数値を採用しています。）

1 2021年度のエネルギー・資源の消費と排出

エネルギー

・電気：　7,069,667kwh（69,148GJ）
・ガス：　697,651m³（35,759GJ）
・灯油：　4,792L（176GJ）
・軽油：　132L（5GJ）
他

総エネルギー投入量：105,131 GJ



水

・上水：29,779m³

input

output

温室効果ガス CO_2

・温室効果ガス：5,182 t-CO_2

排水

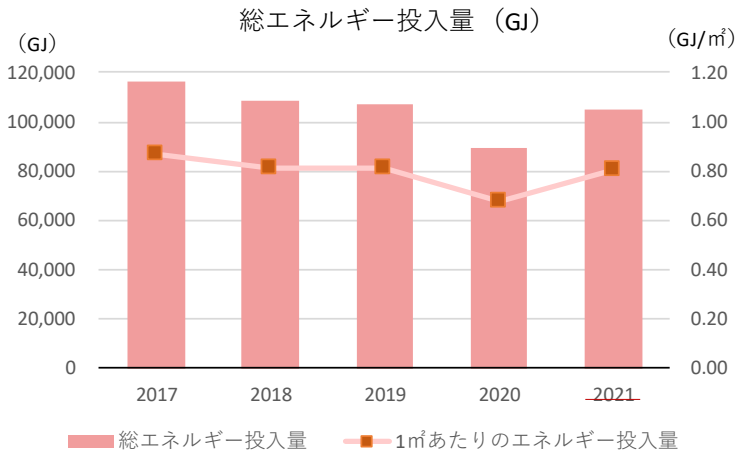
・下　　水：21,204㎥

2 エネルギー・資源の消費と排出の推移

2020年度は、新型コロナウイルス蔓延防止策として入構禁止や遠隔授業を実施していましたが、2021年度は対面授業などの学内活動を再開したことから、エネルギー使用量が前年度より増加し、従前の基調に戻っています。

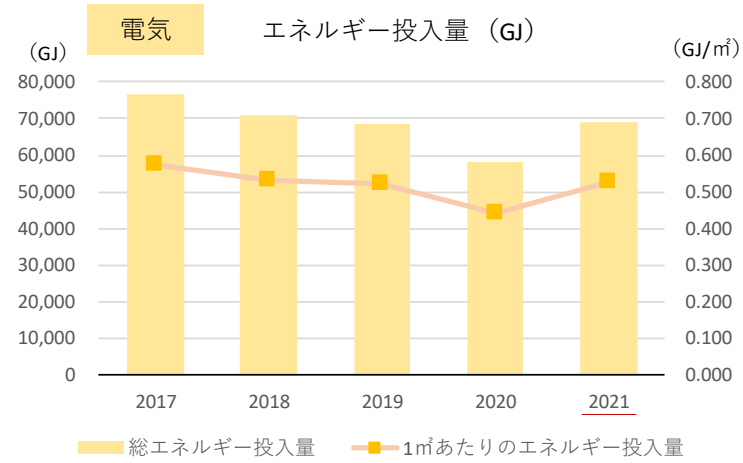
◆総エネルギー投入量

総エネルギー投入量は、学内活動を再開したことから、前年度比＋17.6%増となっています。2019年度比では△1.8%の微減で、全体としては減少傾向となっています。



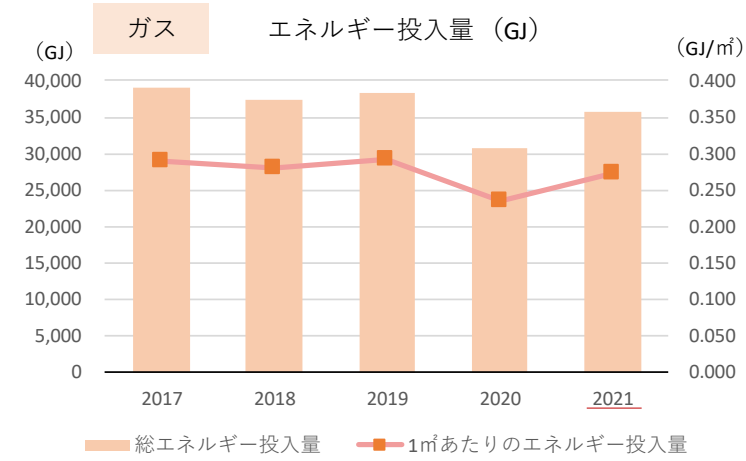
◆電気使用量

電気使用量は、前年度比＋18.5%増で、2019年度比でも微増となっています。



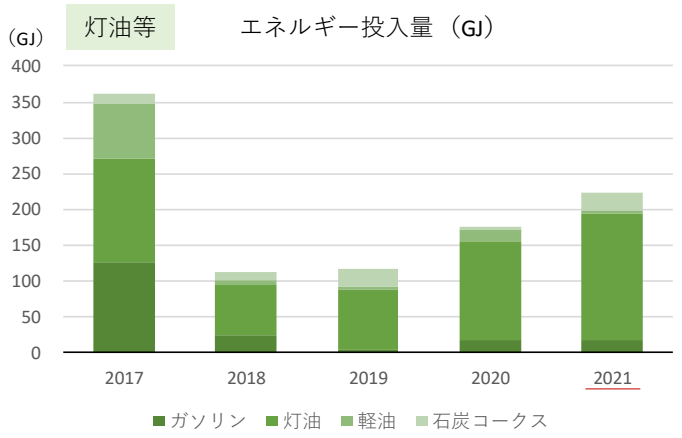
◆ガス使用量

ガス使用量は、前年度比+15.9%の増、2019年度比では△6.5%の減となっています。



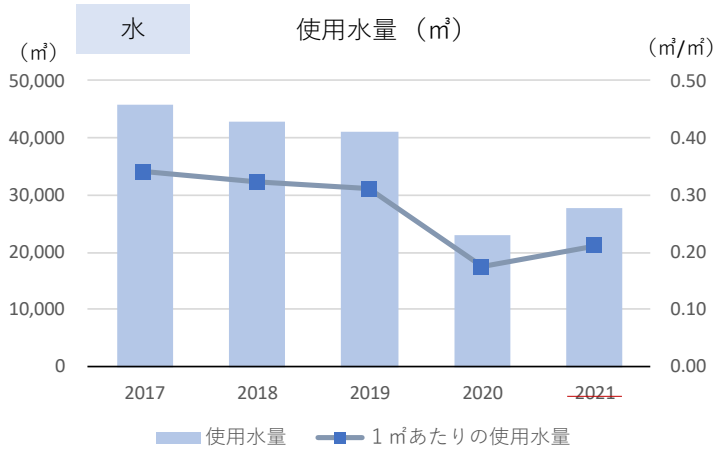
◆灯油等使用量

作業車両や重機、暖房器具等で使用されるガソリン、灯油、軽油、石炭コークスの使用量は、2017 年をピークに減少したものの、近年増加の傾向にあります。



◆水資源使用量

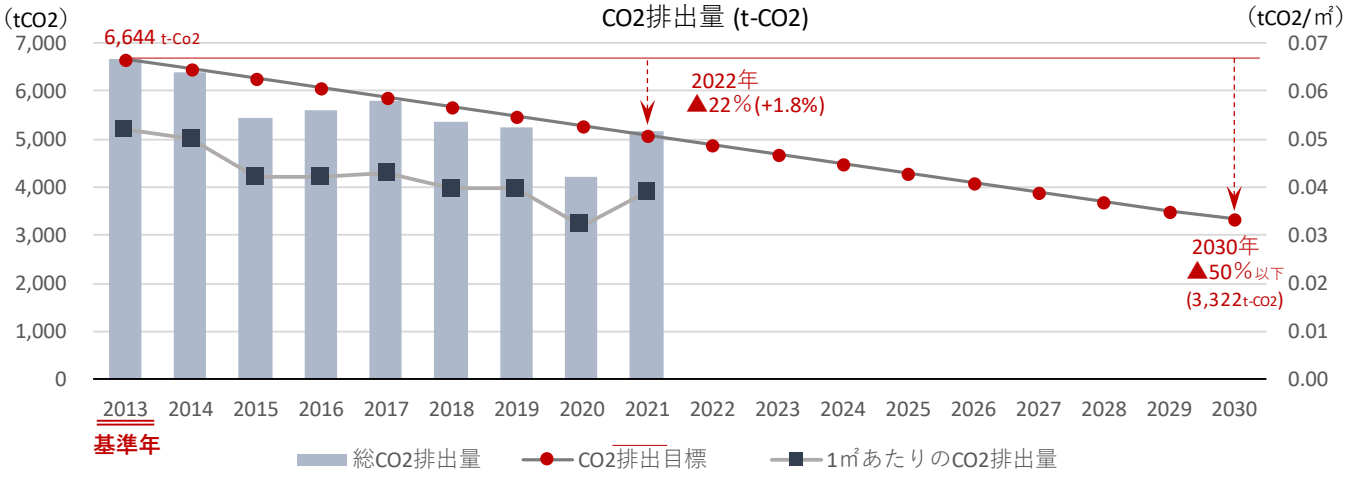
水資源使用量は、全体として減少の傾向にあり、特に2020 年度は新型コロナウイルス蔓延防止措置の影響もあり、大きく減少しました。2021年度は前年度比＋29.2%増であるものの、2019年度比では△27.3%減と、従前の基調より大きく減少しています。



◆温室効果ガス（CO_2）排出量

昨今、CO_2 排出量の削減が世界規模での課題となっていますが、本学でもCO_2 排出量の抑制に努めています。

本学におけるCO_2 排出量は減少の傾向にあります。新型コロナウイルス感染防止対策を行った前年度と比較すると＋23%増となっており、2030年度カーボンハーフのための2022年度目標値に対しても1.8%の超過となっています。目標達成のためにはCO_2 削減に向けた更なる努力が必要です。



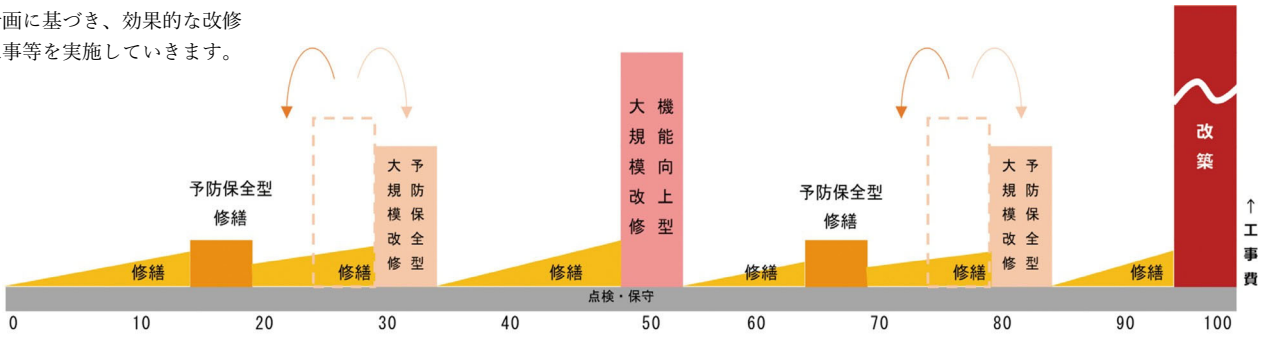
7 環境負荷低減への取組み

本学が管理する施設やインフラ設備を対象として戦略的な維持管理等を推進し、持続可能なキャンパスを形成することを目的に2019年3月にインフラ長寿命化計画を作成しました。

教育研究の基盤であり、財政への影響も大きい施設について、中長期的な視点で取組むべき事項を明らかにし、経営上のリスク軽減等につなげると共に、適切に手を入れることで施設の長寿命化を図ります。

図 7-1 インフラ長寿命化サイクルのイメージ図

計画に基づき、効果的な改修工事等を実施していきます。

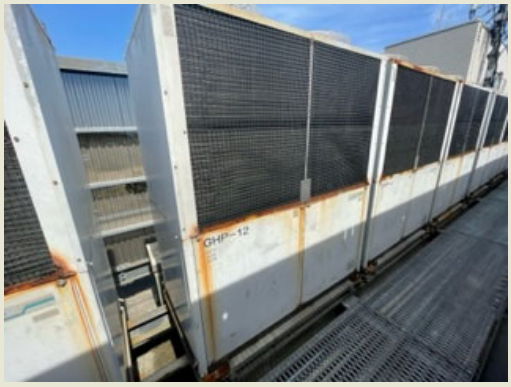


「東京藝術大学インフラ長寿命化計画」「予防保全型修繕を組み合わせた長寿命化サイクル（モデルB）」より

◆経年劣化した空調設備の更新を行いました

設置から21年が経過し劣化したガスヒートポンプ式空調設備の更新工事を行いました。

既設機器の経年劣化による運転効率の低下と、新設機器の性能向上や新品であることの運転効率の良さ等の差から、 設置時点では40%程度のエネルギー消費量の低下が期待できます。しかし、設置後は経年と共に運転効率は下がっていくため、計画的な設備更新が必要不可欠です。



更新前

更新後

東京藝術大学 環境報告書 2022

発行日：2023 年2 月28日

企画・編集：
東京藝術大学キャンパスグランドデザイン推進室
東京藝術大学施設課

発行：国立大学法人 東京藝術大学
110- 8714 東京都台東区上野公園12-8

イラスト：島田智世（東京藝術大学 大学院 美術研究科デザイン専攻）